

1974年 大会記録

国際

◇トビリシ国際大会=フリースタイル(2月1~3日、ソ連・トビリシ)

▼48kg級 平田茂(国士舘大)=優勝、▼52kg級 佐藤賢司(国士舘大)=二失、▼62kg級 前川健吉(国士舘大)=5位、▼68kg級 小泉清一(国士舘大)=二失

◇モンゴル国際大会=フリースタイル(3月8~10日、モンゴル・ウランバートル)

▼48kg級 菅原敏夫(八戸工大)、▼57kg級 滝尻善博(東海大)、▼62kg級 河田里盛(専大)、▼74kg級 弓指広久(専大)、▼90kg級 佐藤晃司(明大)、

◇世界選手権=フリースタイル(8月29日-9月1日、トルコ・イスタンブール)

▼48kg級 工藤章(専大)=6位、▼52kg級 高田裕司(日体大)=優勝、▼57kg級 佐々木禎(日体大)=4位、▼62kg級 斎藤勝彦(秋田・秋田経大付高教)=6位、▼68kg級 菅原弥三郎(国士大)=2位、▼74kg級 出河満男(自衛隊)=二失、▼82kg級 茂木優(秋田・秋田商高教)=5位、▼90kg級 鎌田誠(自衛隊)=二失、▼100kg級 斎藤真(千葉・浦安高教)=二失、▼100kg以上級 磯貝頼秀(ゼネラル石油)=6位

◇アジア大会(9月8~13日、イラン・テヘラン)

《フリースタイル》▼48kg級 工藤章(専大)=優勝、▼52kg級 高田裕司(日体大)=2位、▼57kg級 佐々木禎(日体大)=2位、▼62kg級 斎藤勝彦(秋田・秋田経大付高教)=7位、▼68kg級 菅原弥三郎(国士大)=優勝、▼74kg級 出河満男(自衛隊)=3位、▼82kg級 茂木優(秋田・秋田商高教)=2位、▼90kg級 鎌田誠(自衛隊)=3位、▼100kg級 斎藤真(千葉・浦安高教)=4位、▼100kg以上級 磯貝頼秀(ゼネラル石油)=優勝

《グレコローマン》▼48kg級 石田和春(小玉合名)=2位、▼52kg級 平山紘一郎(自衛隊)=優勝、▼57kg級 桜間洋二(自衛隊)=3位、▼62kg級 宮原照彦(佐賀・鹿島実高教)=2位、▼68kg級 小林武(自衛隊)=5位、▼74kg級 長友寧雄(警視庁)=3位、▼82kg級 佐藤貞雄(大東大教)=優勝、▼90kg級 藤田芳弘(国士舘大)=2位、▼100kg級 斎藤真(千葉・浦安高教)=5位、▼100kg以上級 磯貝頼秀(ゼネラル石油)=2位

◇世界選手権=グレコローマン(10月10~13日、ポーランド・カトピツェ)

▼48kg級 大西浩三(日体大) = 三失、▼52kg級 平山紘一郎(自衛隊) = 二失、▼57kg級 七尾秀樹(自衛隊) = 三失、▼62kg級 宮原照彦(佐賀・鹿島実高教) = 二失、▼68kg級 小林武(自衛隊) = 二失、▼74kg級 = 出場なし、▼82kg級 佐藤貞雄(大東大教) = 二失、▼90kg級 山口勇雄(自衛隊) = 二失、▼100kg級 秋山安成(自衛隊) = 二失、▼100kg以上級 = 出場なし

国内

◇全国高校選抜大会(4月12日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 新潟・新潟東工、[2] 鹿児島・鹿児島商工、[3] 秋田・五城目、岐阜・岐阜工

◇西日本学生春季新人戦(5月5日、大阪・桃山学院大)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 上嶋義次(大体大)、▼52kg級 窪田隆一(大体大)、▼57kg級 滝井延夫(大体大)、▼62kg級 田中孝芳(大体大)、▼68kg級 長岡晃(大体大)、▼74kg級 竹之内昭弘(大体大)、▼82kg級 吉田信成(大体大)、▼82kg以上級 堀之内大介(同志社大)

※フリースタイルのみ

◇西日本学生春季リーグ戦(5月24~26日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《順位》[1] 福岡大(2季ぶり3回目)、[2] 大体大、[3] 同志社大、[4] 桃山学院大、[5] 中京大、[6] 近大

◇全日本社会人選手権(5月25~26日、秋田・秋田勤労福祉センター)

《団体戦・官公庁対抗優勝》自衛隊、《同・実業団対抗優勝》三信電気、《同・クラブ対抗優勝》秋田経大高OB、《同・三部対抗優勝》自衛隊

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 高村勝義(三重県庁)、▼52kg級 下田和弘(斎藤道場)、▼57kg級 佐藤光太郎(警視庁)、▼62kg級 斎藤勝彦(秋田・秋田経法大付高OB)、▼68kg級 平松義高(自衛隊)、▼74kg級 野口次夫(自衛隊)、▼82kg級 茂木優(秋田商ク)、▼90kg級 鎌田誠(自衛隊)、▼100kg級 谷公市(和歌山教員)、▼100kg以上級 堀越和夫(斎藤道場)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 高村勝義(三重県庁)、▼52kg級 石和和春(小玉合名)、▼57kg級 藤瀬勝信(三重・宇治山田高教)、▼62kg級 高洲恵三(自衛隊)、▼68kg級 高田直昭(和歌山県教委)、▼74kg級 沖村真五(警視庁)、▼82kg級 茂木

優(秋商ク)、▼90kg級 山口勇雄(自衛隊)、▼100kg級 谷公市(和歌山県教委)、▼100kg以上級 秋山安成(自衛隊)

◇東日本学生リーグ戦(5月28～29日、6月18日、東京・日大講堂)

《一部》[1] 国士大(初)、[2] 専大

(A組順位) [1] 専大、[2] 明大、[3] 日大、[4] 大東大、[5] 東洋大、[6] 早大

(B組順位) [1] 国士大、[2] 日体大、[3] 拓大、[4] 東農大、[5] 中大、[6] 法大

◇東日本学生春季新人戦(6月9～12日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 三浦昌則(拓大)、▼52kg級 藤谷礼二(専大)、▼57kg級 山路明(国士館大)、▼62kg級 多賀恒雄(明大)、▼68kg級 横山勝幸(専大)、▼74kg級 小柳美代志(明大)、▼82kg級 沢田修(大東大)、▼90kg級 佐藤晃司(明大)、▼90kg級以上 清水一夫(大東大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 森脇由晃(日体大)、▼52kg級 藤谷礼二(専大)、▼57kg級 山路明(国士館大)、▼62kg級 瀬筒節夫(国士館大)、▼68kg級 開場広三(東洋大)、▼74kg級 鈴木寛(法大)、▼82kg級 清水輝夫(専大)、▼90kg級 吉田幸雄(専大)、▼90kg級以上 清水一夫(大東大)

◇西日本学生選手権(6月21～23日、大阪・大阪府立体育会館別館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 森表芳一(近大)、▼52kg級 前田行雄(大体大)、▼57kg級 田中孝芳(大体大)、▼62kg級 堀塚清(近大)、▼68kg級 作本二郎(大体大)、▼74kg級 井尻裕信(近大)、▼82kg級 松下有作(同志社大)、▼82kg以上級 橋本節夫(桃山学院大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 窪田隆一(大体大)、▼52kg級 村上梅春(大体大)、▼57kg級 桜井二郎(大体大)、▼62kg級 大越悟(大体大)、▼68kg級 草刈一(近大)、▼74kg級 井尻裕信(近大)、▼82kg級 松下有作(同志社大)、▼82kg以上級 橋本節夫(桃山学院大)

◇全日本選手権(6月28～30日、三重・三重総合体育館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 工藤章(専大)、▼52kg級 高田裕司(日体大)、▼57kg級 佐々木禎(日体大)、▼62kg級 斎藤勝彦(秋田・秋田経法大付高教)、▼68kg級 菅原弥三郎(国士大)、▼74kg級 出河満男(自衛隊)、▼82kg級 茂木優(秋田・

秋田商高教)、▼90kg級 鎌田誠(自衛隊)、▼100kg級 斉藤真(千葉・浦安高教)、▼100kg以上級 磯貝頼秀(ゼネラル石油)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 石田和春(小玉合名)、▼52kg級 平山紘一郎(自衛隊)、▼57kg級 桜間洋二(自衛隊)、▼62kg級 宮原照彦(鹿児島・鹿児島実高教)、▼68kg級 小林武(自衛隊)、▼74kg級 長友寧雄(警視庁)、▼82kg級 佐藤貞雄(大東大)、▼90kg級 藤田芳弘(国士大)、▼100kg級 谷公市(和歌山・古座高教)、▼100kg以上級 矢田静雄(和歌山・粉河高教)

◇インターハイ(8月2~5日、福岡・大牟田市民体育館)

《学校対抗戦》[1] 鹿児島・鹿児島商工、[2] 秋田・五城目、[3] 新潟・新潟工、青森・八戸工

《個人戦優勝者》▼48kg級 清水清人(鹿児島・加世田農)、▼52kg級 佐藤和夫(山形・山形商)、▼56kg級 田部井茂(群馬・館林)、▼60kg級 藤田良穂(茨城・太子一)、▼65kg級 中村伸(鹿児島・鹿児島商工)、▼70kg級 川田勝也(秋田・秋田経法大付)、▼75kg級 谷津嘉章(栃木・足利工大付)、▼75kg以上級 鈴木光(茨城・土浦日大)

◇西日本学生秋季新人戦(9月16日、大阪・桃山学院大)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 米沢一幸(同志社大)、▼52kg級 間沢孝公(関大)、▼57kg級 斉藤和男(同志社大)、▼62kg級 松井堅一(大体大)、▼68kg級 中岡正作(近大)、▼74kg級 高田文孝(近大)、▼82kg級 広瀬晴行(桃山学院大)、▼82kg以上級 堀之内大介(同志社大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 森表芳一(近大) ▼52kg級 上嶋義次(大体大)、▼57kg級 村上梅春(大体大)、▼62kg級 松井堅一(大体大)、▼68kg級 中岡正作(近大)、▼74kg級 高田文孝(近大)、▼82kg級 広瀬晴行(桃山学院大)、▼82kg以上級 堀之内大介(同志社大)

◇全日本学生選手権(9月18~21日、東京・世田谷区体育館)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 藤沢信雄(大東大)、▼52kg級 刈場勇光(専大)、▼57kg級 太田利光(専大)、▼62kg級 宮原章(明大)、▼68kg級 小泉清一(国士館大)、▼74kg級 伊藤良和(専大)、▼82kg級 高西一宏(国士館大)、▼90kg級 飯野祐邦(明大)、▼90kg級以上 平田靖之(国士館大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 更谷栄二(大東大)、▼52kg級 宇野勝彦(日体)

大)、▼57kg級 山形国成(大東大)、▼62kg級 堀井健一(国士舘大)、▼68kg級 道本慶次(日体大)、▼74kg級 伊藤良和(専大)、▼82kg級 高西一宏(国士舘大)、▼90kg級 飯野祐邦(明大)、▼90kg級以上 清水一夫(大東大)

◇全日本学生王座決定戦(10月3～4日、東京・駒沢体育館)＝決勝記録

専大○[5-4]●明大

※専大は2年連続3度目の優勝

◇東日本学生グレコローマン選手権()＝決勝記録

※

◇国体(10月21～24日、茨城・笠間市民体育館)

《一般フリースタイル優勝者》▼48kg級 工藤章(岩手・専大)、▼52kg級 高田裕司(群馬・日体大)、▼57kg級 佐々木禎(静岡・日体大)、▼62kg級 斎藤勝彦(秋田・秋田経大付高教)、▼68kg級 菅原弥三郎(秋田・国士舘大)、▼74kg級 出河満男(埼玉・自衛隊)、▼82kg級 茂木優(秋田・秋田商高教)、▼90kg級 鎌田誠(埼玉・自衛隊)、▼100kg級 斎藤真(千葉・浦安高教)、▼100kg以上級 磯貝頼秀(千葉・ゼネラル石油)

《一般グレコローマン優勝者》▼48kg級 平田茂(鹿児島・国士舘大)、▼52kg級 宇野勝彦(三重・日体大)、▼57kg級 中島俊美(岐阜・羽島高教)、▼62kg級＝優勝なし(2位2人)、▼68kg級 小林武(埼玉・自衛隊)、▼74kg級 野口次男(鹿児島・自衛隊)、▼82kg級 佐藤貞雄(埼玉・大東大)、▼90kg級 佐藤晃司(埼玉・大東大)、▼100kg級 谷公市(和歌山・古座高教)、▼100kg以上級 矢田静雄(和歌山・粉河高教)

《高校フリースタイル優勝者》▼48kg級 朝倉利夫(鹿児島・鹿児島商工)、▼52kg級 佐藤和夫(山形・山形商)、▼56kg級 田部井茂(群馬・館林)、▼60kg級 南正昭(鹿児島・加世田農)、▼65kg級 寒河江良助(山形・山形南)、▼70kg級 川田勝也(秋田・秋田経法大付)、▼75kg級 田中量(新潟・新潟東工)、▼81kg級 太田章(秋田・秋田商)、▼87kg級 鈴木光(茨城・土浦日大)、▼87kg以上級 大湊康訓(新潟・北越商)

《高校グレコローマン優勝者》▼48kg級 藤本賢一(山口・桜ヶ丘)、▼52kg級 菊地通(茨城・大子一)、▼56kg級 伊藤裕司(三重・桑名工)、▼60kg級 大野義弘(山口・柳井工)、▼65kg級 木許勝弘(三重・尾鷲工)、▼70kg級 寺井武彦(埼玉・飯能)、▼75kg級 名雪正紀(千葉・銚子商)、▼81kg級 蓮子幹夫(鹿児島・加世田農)、▼87kg

級 玉槻均（宮城・仙台育英）、▼87kg 以上級 田中信明（神奈川・法政二）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月22～24日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 福岡大（2季連続4度目）、[2] 大体大、[3] 桃山学院大、[4] 中京大、
[5] 同志社大、[6] 関学大

◇東日本学生秋季新人戦（11月13～16日、東京・青少年総合センター）

《フリースタイル優勝者》▼48kg 級 神谷修司（大東大）、▼52kg 級 田原重則（拓大）、
▼57kg 級 川村昌司（日体大）、▼62kg 級 堀井健一（国士舘大）、▼68kg 級 小笠原寛
（八戸工大）、▼74kg 級 椎野哲俊（日体大）、▼82kg 級 小柳美代志（明大）、▼90kg
級 吉田幸雄（専大）、▼90kg 級以上 清水一夫（大東大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg 級 坂本雅夫（専大）、▼52kg 級 田原重則（拓大）、
▼57kg 級 湊ノ上文也（日体大）、▼62kg 級 堀井健一（国士舘大）、▼68kg 級 多賀恒
雄（明大）、▼74kg 級 井坂二郎（法大）、▼82kg 級 沢田修（大東大）、▼90kg 級 清
水輝夫（専大）、▼90kg 級以上 松永清志（日体大）